グリム童話の日本における受容

―ジェンダーと教育的な問題

鈴木　彩

1.　はじめに

現在ではメディアミックスによって様々な媒体でグリム童話に触れることができる。原典のみならず、日本語訳の小説、絵本、アニメーション映画、実写映画、テーマパークのアトラクションなど展開されているが、どの媒体で受容するかによって同じ童話でもイメージは異なる。また、どこをどう切り取るかによっても、話のイメージは全く異なってくる。

グリム童話は1812年に初版が発行されて以来改訂が繰り返されたが、現在多くの国で親しまれているグリム童話の物語は1857年の最終版、第7版である。グリム童話は、グリム兄弟がもともと必ずしも子供向けに語られていたわけではない昔話を集めた昔話集であったが、„Kinder- und Hausmärchen“（『子どもと家庭のメルヒェン集』）として出版したため、子供のための話として文体が整えられていった。しかし、昔話の伝承を担っていた庶民階級には本を買う余裕がなかったために都市富裕市民へと受容者層が移り、その層の教育的配慮という要請から親子間の暴力的な表現や性的要素といったものが排除されていったと藤涛文子は「翻訳童話のテクスト成立事情―グリム童話を例に―」の中で指摘している。

日本でのグリム童話の受容が始まった当初は教育目的として物語が受容されていたが、修身教材などに説話を選定する際には様々な厳しい基準があり、全210篇のうち採用されたのはごく一部である。明治期に日本にグリム童話が入ってきて以来、状況に応じて様々な形のグリム童話が日本に広まっていった。先行研究を読んだ結果、グリム童話は明治期の日本では教育のための物語として受容されたことがわかった。また、グリム童話についてジェンダーの視点から論じている文献を閲読したが、再考の余地がある点が見受けられた。本論では残酷な物語を子供に伝える是非、そしてグリムの時代と現在のジェンダー観という2点に着目する。

ここでは受容の期間を明治期（明治20年～明治44年）、大正期（大正元年～

大正 15 年)、昭和 1 期(昭和元年〜昭和 20 年)、昭和 2 期(昭和 21 年〜昭和 40 年)、昭和 3 期（昭和 41 年〜昭和 63 年)、平成期の 5 つに分け、「ラプンツェル」、「赤ずきん」、「シンデレラ」の三話を取り上げて比較し、考察していく。なお、日本語ネイティブ（以下：日本人）とドイツ語ネイティブ（以下：ドイツ人）にグリム童話についてのアンケート調査を行ったため、その結果も合わせて考えていく。

2.　グリム童話の受容（明治期）

グリム童話が最初に日本に入ってきたのは、明治 19（1886）年 4 月であり、“ROMAJI ZASSHI” に掲載されたカタヤマキンイチロウ訳の「羊飼いの童」であった。翌年の明治 20（1887）年 9 月には『八ツ山羊』(「狼と七匹の子山羊」）が呉文聰によって翻訳された。この頃からグリム童話の邦訳が活発になり、日本での受容が広まっていった。

そもそもグリム童話が日本へと浸透していったのは、明治期の教育においてグリム童話が取り上げられたからである。グリム童話が教育の場で用いられるようになったのは、ヘルバルト派の教授理論が大きく関係している。

明治 20 年、東京大学にドイツの教育者であるエミール・ハウスクネヒト（1853〜 1927 年）が招聘され、ヘルバルト主義の教育学を講義した。

> 凡そ教授と云ふことは、唯に或る事柄を知らしむるのみならず、之により精神の力をも強くし徳性をも養うべき者なり。左れば正しき教授は、（中略）第一生徒が既に有する所の観念と、教師が今将に教へんとする所の観念とを結合せしめ、第二に教師が教へんとする観念を生徒に与え、第三に生徒をして新に得たる観念を、種々の事に応用せしめ、第四に新に与えたる観念に関係ある事項につきて、生徒の徳性を養うこと是なり [1]。

これはハウスクネヒトが明治 21 年 1 月 24 日に自宅に教育関係者たちを招いて行った講義の記録（『教育時論』）であり、ここからヘルバルト学派は道徳的意志あるいは道徳的品性の陶冶という教育の目的を掲げていたことがわかる [2]。

1)　ハウスクネヒト（1888：26)。
2)　山本（1985：69）を参照。

明治 35（1902）年、ヘルバルトの弟子であるラインとツィラーにより、『小学校教授の実際』という本が出版された。その第 1 学年用の本には、グリム童話がいくつか取り上げられている。ツィラーが取り上げたのは、(表 1) の 12 話である。

（表 1）ラインとツィラーにより選出されたグリム童話 12 話

	明治期のタイトル	現在のタイトル
KHM53	星銀嬢	星の銀貨
KHM151	三人の怠惰者	ものぐさ三人兄弟
KHM14	三人の紡績女	糸をつむぐ三人の女
KHM18	藁と石炭と菜豆	わらと炭と豆
KHM5	狼と七匹の子山羊	狼と七匹の子やぎ
KHM80	牝鶏と牡鶏即ち牝鶏の死	めんどりの死
KHM73	狼と狐	狼と狐
KHM10	無頓漢	ならずもの
KHM27	ブレーメンの市街音楽者	ブレーメンの音楽隊
KHM102	鷦鷯と熊	みそさざいと熊
KHM51	見鳥	めっけ鳥
KHM87	貧者と富者	貧乏人とお金持

奈倉（2005：14）を参考に作成。

これらの話を取り上げるに至った基準は、「善と悪とは厳重に区別すべきである。すべての人に見捨てられたものに、愛や憐れみの手をさしのべることが、多くの童話を貫く精神であり、不従順なものや詐偽であるものが厳重に罰せられていること。童話では、骨折るものと重荷に苦しむものが、特に称揚されなくてはならない」[3] の 3 つである。また排斥しなければならないものとして、「善悪美醜が錯乱しているようなもの。継母の関係が、ある役割を演じているような童話」[4] の 2 つが挙げられている。

3)　奈倉（2005：14）。
4)　奈倉（2005：14）。

しかし、ラインはツィラーが挙げた話のうち、「三人の怠惰者」と「三人の紡績女」を除いたほうがよいとしている[5]。その理由は、「怠惰な者に対する応報がいかがわしく見えるからであり、また、怠惰、虚言、詐偽がかえって多くの報酬を得ているからである」[6]としている。

グリム童話が日本で受容され始めた頃は、このように教訓性を重視する傾向が強く、主に修身教材として受容されていくことになる。

明治 30（1897）年には、修身教材として樋口勘次郎による『修身童話』が出版された。樋口自身の自序には、

> グリムの昔噺が、尋常小学一年級の修身教授材料として、児童の理解に適し、興味に応し、高尚なる感情を養ひ、明瞭なる倫理を教へ、（中略）善を行ふ方に導く、好材料なることは、チルレル、ライン等の夙に唱導せるところ、余、其の説を読みて、大によろこび、是れを我国に行はんと欲して、（中略）昔噺を以て、現今世に行はるる、無味淡泊、蠟をかむが如き、材料にかふるの急務なるを感しぬ[7]

とある。ここに書かれているように、樋口はヘルバルト派の影響を大きく受けており、「無味淡泊」な修身教材の代わりに児童が興味を抱きやすく高尚な感情を養えるようなグリム童話を選定した。この修身童話シリーズの反響はというと、「諸方の教育家から至極賛成であるとか、或は大体において善いものとおもふとか、いろいろ批評の手紙なども沢山もらつた。来学年から修身の参考書に採用しやうというてをらるる小学校もある」[8]ということから、修身教材としてある程度受け入れられていたと考えられると奈倉洋子は『日本の近代化とグリム童話—時代による変化を読み解く—』（2005年）の中で指摘している。

一方、日本のお伽噺も含め、グリム童話などのお伽噺を教育に取り入れるべきではないという考えもあった。

---

5)　代わりにラインは「ホルレー夫人」（KHM24）と「薔薇野紅子嬢」（KHM161）を加えた。
6)　奈倉（2005：15）。
7)　奈倉（2005：16-17）。
8)　奈倉（2005：18）。

> 次に現時日本の教育界に於ける一派の非難はと云ふと、之は極単純な皮相な議論で、之等の論者の説に依れば、お伽噺には犬や猿が人間と同じ様に物を言ふたり、或は雀がお爺さんを御馳走したりする様な、実際有るまじき事が書いてあるが、若し斯う云ふ嘘を子供に教へて置けば、やがて其子供が大きくなつた時に、何と云ふてあらう、自分の小さな時に、お爺さんやお婆さんから聞いたお伽噺は、あれは皆嘘である、學校で教はつた事も大方こんなことだらうと云ふ様に、折角本當の事を教へて置いても、夫れがお伽噺のために破壊されて、大に教育の信用を失墜すると云ふのが、其非難の要義であります[9]。

お伽噺には現実とは異なる空想的な出来事が起こっていることが多いため、子供に嘘を教えるのは良くないという理由から修身教材として用いることに反対する人もいた。これに対してお伽噺の研究家として知られている木村小舟は、

> お伽噺に仕組んで有ることも、犬や雀が物を云ふたのは嘘であるが、之に依つて因果応報の関係やら、道徳上の関係を巧みに現してあるので、而も夫等の動物の感情を描くにはどうしても物を云はせなければ解らぬ故、假にそうしたのであるが、之を後日嘘だと云ふて、教師や父母を怨む様な子供が何所の國にありませう[10]

と反論している。一部の教育者によってグリム童話を教育に用いることが非難されたが、それでもなおグリム童話は教育的価値が高いと認められ、多くの修身教材に収録されることになった。

修身教材のような副読本としてではなく、教科書にグリム童話が登場したのは、明治から昭和 20 年にかけて、明治 33（1900）年のたった一回のみである[11]。坪内逍遥著の『国語読本』に収録されている「おしん物語」は、現在の日本では「シンデレラ」の名前で知られている。

明治 19 年に日本にやってきたグリム童話は、教科書に載ることはほとんどな

9) 木村（1908：17-19）。
10) 木村（1908：20-21）。
11) 奈倉（2005：23）を参照。

かったものの、修身教材のような補助教材として教育の場で用いられてきた。授業ではなく、子供が自発的にグリム童話に触れるようになっていったのは、大正に入ってからである[12]。大正時代では、どのようにグリム童話が受容されていったのだろうか。

3.　グリム童話の受容（大正期）

続橋達雄はグリム童話の大正期における受容を、「露骨な教育性とか国民性にあうかあわぬかなどといった呪縛から解放されはじめた」[13]時期とみている。大正という時代は15年という短い間に「デモクラシー」的な動きが社会に現れ、主体的に自分たちの生活を営んでいこうとする試みがなされていたが、やがてこの自由な風潮は国家主義的な力に飲み込まれてしまう。

大正時代のグリム童話受容の特徴としてあげられるのは、原典に即した翻訳がなされるようになった点である。今回取り上げる大正期の「ラプンツェル」、「灰かぶり」、「赤ずきん」のうち、9版[14]中6版は原作からの大きな変更は見られなかった。明治期に翻訳されていたものはストーリー性重視で、例えば「灰かぶり」だといじめられるシーンがカットされるなどの改変が行われていたが、大正期には原典そのものの翻訳が多くなり、翻訳点数も飛躍的に伸びた。その要因として、グリム童話の受容層が広がったことが挙げられる。都市に多くの人口が流入したために都市の中心に巨大な中間層が出現し、教養文化的な関心が高かった彼らをターゲットにした「模範家庭文庫」や「家庭文学名著選」といった名作集が出版された。大正4（1915）年に冨山房から出版された「模範家庭文庫」にはイソップ物語やアンデルセン御伽噺とともにグリム童話集も発刊されており、グリム童話集も都市富裕層の子供たちをターゲットにして翻訳がなされていたと奈倉は推測している。

---

12) 奈倉（2005：26-27）を参照。
13) 続橋（1990：141）。
14) 田中楳吉訳（1914）「紅頭巾さん」『グリンムの童話』、中島孤島訳（1916）「赤頭巾」『グリム御伽噺』、金田鬼一訳（1924）『赤づきん』、岸英雄著（1925）「赤ヅキン」『こどもグリム』、田中楳吉訳（1914）「灰かぶりさん」『グリンムの童話』、中島孤島訳（1916）「消炭さん」『グリム御伽噺』、金田鬼一訳（1924）「灰かぶり」『世界童話大系』、中島孤島訳（1916）「ラプンツェル」『グリム御伽噺』、金田鬼一訳（1924）「野萵苣（ラプンツェル）」『世界童話大系』。

また、大正 13（1924）年と昭和 2（1927）年には、金田鬼一によって 210 話全てが翻訳されたグリム童話集が発刊され[15]、原典の初版には収録されているものの最終版では削除されてしまっている話まである[16]。この金田の訳業について、本人は次のように記している。

> 英国出版の英訳グリムには、一種の道徳上の見地からして故意に本文に取捨が加えられてゐるように思ふ。（中略）児童の読物と見られてゐる外国の「おはなし」に干渉するのは無理のない話ではあるが、これは一向感心出来ないことである。従来日本で出版されて居るグリムの抄訳は大抵英米版の重訳へまた手が入つてるやうなもので、この傾向は事実知らず識らずの間に我国にも入込んでゐるものと推定して宜しい。そして我国でもこの風が歓迎されるのかも知れないが、児童はかくの如くにして教育せらるべきものであらうか[17]。

金田は、明治期のグリム童話の特徴で見られた教育的な目的で改変されたものや、既に手が加えられている英米版のグリム童話を重訳することに批判的である。ここで金田が述べているのは日本に入ってきたグリムの英訳書のことであり、当時のイギリスでは原典に忠実な全訳本がいくつも出版されている[18]ところは奈倉の指摘する通り注意しておく必要がある。また、当時の日本で受容されていた「子供のためのグリム童話」は規範的な見方を一方的に押し付けていると、批判を込めて記している。最近の「灰かぶり（シンデレラ）」では省略されがちな、グロテスクなシーンも金田は省くことなく訳している。

> Als die Brautleute nun zur Kirche gingen, war die Älteste zur rechten, die Jüngste zur linken Seite: da pickten die Tauben einer jeden das eine Auge aus. Hernach, als sie, herausgingen, war die Älteste zur linken und die Jüngste zur rechten: da pickten die Tauben einer jeden das andere Auge aus. Und waren sie also für ihre Bosheit und

15) 世界童話大系第二巻　独逸篇』（1924）には 120 話、『世界童話大系第二十三巻　独逸篇（2）』（1927）には 103 話掲載されている。
16) 奈倉（2005：141）を参照。
17) 金田（1924：20-21）。
18) 奈倉（2005：142）を参照。

Falschheit mit Blindheit auf ihr Lebtag gestraft[19].

花むこ花よめが教会へ行く段どりになると、姉は右に、妹は左につきそいました。すると、二羽の鳩が、めいめいから、目だまを一つずつ啄きだしました。お式がすんで、教会から出てきたときには、姉は左に、いもうとは右につきそっていました。すると、二羽の鳩が、めいめいからもう一つの目だまをつつきだしました。こんなわけで、ふたりの姉妹は、じぶんたちが意地わるをしたばかりに、かえだまなんぞになったばかりに、ばちがあたって、一しょうがい目くらでいることになりました[20]。（金田鬼一訳、1979 年）

このシーン以外にも、継母が義姉のつま先やかかとを切り落とすよう指示する場面など、残酷なシーンを持つものは 14 版中 11[21] 版にものぼった。「児童は無垢な存在であり、それを汚すようなものは避けるべきだ」[22] と主張する修身教育に賛同する人々は、グリム童話の残酷な部分や教育上好ましくない部分を削除、改変して出版していた[23]。一方、菅了法訳の『西洋古事神仙叢話』や渋江保訳の『西洋妖怪奇談』のように「西欧世界を理解する系譜」[24] として出版されたものは、教育上好ましくない部分を削除するといったような改変はされていない。金田の訳は修身教育に反対する人々に支持され、一定の影響力を持っていた。その後、金田のような原典に忠実に訳は、ドイツ文学者の舟木重信らによって継承されていった。

19) Grimm (1996：128)。
20) 金田（1979：241-242）。
21) 菅了法訳（1887）「シンデレラの奇談」『西洋古事神仙叢話』、渋江保訳（1891）「シンドレラ奇縁談」『西洋妖怪奇談』、和田垣謙三他訳（1909）「真珠姫」『家庭お伽噺』、田中楳吉訳（1914）「灰かぶりさん」『グリンムの童話』、中島孤島訳（1916）「消炭さん」『グリム御伽噺』、金田鬼一訳（1924）「灰かぶり」『世界童話大系』、菊池寛訳（1927）「灰かぶり姫」『グリム童話集』、桐生操著（1998）「シンデレラ」『本当は恐ろしいグリム童話』、グルーヴィジョンズ著（2001）『グリム童話アーティストブックシリーズ灰かぶり（シンデレラ）』、矢川澄子他著（2001）『絵本・グリム童話　灰かぶり』、佐々木田鶴子訳（2007）「灰かぶり」『グリム童話集』。
22) 奈倉（2005：144）。
23) 奈倉（2005：144）を参照。
24) 川戸（1999：1）。

4.　グリム童話の受容（昭和期）

昭和が始まってすぐのころは、「よいものを安く」という動きが出版界の中にあった[25]。菊池寛と芥川龍之介が編集責任に当たった、興文社・文藝春秋社の「小学生全集」にもグリム童話が収められているが、父兄に向けたはしがきには次のように記されている。

> グリム童話は、いかにも童話らしい童話だと思ひます。かうした童話集も、一冊だけは是非本全集に収録することが必要だと思います。（中略）なほ、話の中で、あまり残酷すぎると思はれる筋や、結婚などに関する話で、西洋の児童には何でもなくても、日本の児童には如何かと思はれるやうな点は、削除或は改作しました。かうした古典的な童話に、手を入れることは問題でせうが、私は差支へないと思ひます[26]。

昭和 1 期（昭和元年～ 1945 年）のグリム童話受容の中で大きな特徴といえるのが、漫画の台頭である[27]。昭和 6（1931）年に手塚治虫も影響を受けた田河水泡の「のらくろ」が『少年倶楽部』で連載が始まり、その後続々と雑誌に漫画が掲載されるようになっていった。この「のらくろ」シリーズの人気をきっかけに漫画の単行本の発行が盛んになり、子供の読物の世界に漫画がしばしば登場するようになっていった。このような流れで、昭和 12 年に『グリムマンガ』（「赤頭巾」、「ブレーメンの音楽隊」の二話収録）が銀羊社から出版された。

奈倉によれば、日中戦争が開始されると新聞雑誌の報道規制が始まり印刷用紙統制も行われ始めたため、昭和 18（1943）年には雑誌『子どもの友』が廃刊に追い込まれた。戦時中に発刊された昭和 19 年の藤原肇訳、『グリム童話　勇ましいちびの仕立て屋さん』には、次のように記されている。

> 一、本原書は従来のグリム全集と異り、独逸にて童話として不適当なものは幾十篇か省かれてゐる。

25) 奈倉（2005：157）を参照。
26) 菊池（1927：3）。
27) この段落は奈倉（2005：164-165）を参照。

一、訳者は我国国民学校児童に読ませるため、更に童心に思はしからぬ影響を及ぼすと推思したものは総て省いた。

一、従つて、原書の二十九篇中八篇を省いて、第一巻として順次二十一篇を訳出した。

一、本書は次代の国家を背負つて立つ可き、国民学校児童の教養に幾分の貢献をなし得れば幸である[28]。

四つのうちの一つ目と二つ目の記述からは、明治期の教育の場でのグリム童話の受容と同じように、子供にとって不適切と考えられる部分が省かれていることがわかる。例えば「灰かぶり」は、「継母とその娘たちが主人公の灰かぶりをいじめ、その罰として、結末で二人の娘たちの目を鳩がつつき出す場面があまりにもなまなましい」[29] という理由から削除されている。奈倉はその理由を「1 理由なく、残酷なひどい仕打ちをしているもの。2 結末の罰があまりにもなまなましく残酷なもの。3 怠け者の女性が登場しているもの。4 道ならぬ恋をした上、その男と協力して王をなきものにしようとした、道にはずれた妃という存在。5 兄弟愛に反するもの」である[30] としている。一方で、大正期の特徴に見られた話の筋の改変は藤原肇訳にはほとんど見られず、不適当だと判断されたものは話そのものを童話集から削除するというやり方をとっている[31]。

4.　話別の受容

ここまでは先行研究を用いて明治期から昭和期にかけて日本におけるグリム童話の受容を見てきた。ここからは平成期以降の受容についても見ていくが、全ての作品を網羅的に調査するには紙幅が足りないため、論じる対象の話を 3 つに絞る。

「赤ずきん」は明治期以来長く受容され、「灰かぶり」は 1920 年代から徐々に受容が広まっていった。そして「ラプンツェル」は独自に調査した、「最後に観た（読んだ）グリム童話の作品」というアンケート結果で最も回答が多かった。

28) 藤原（1944 : 2）。
29) 奈倉（2005 : 168）。
30) 奈倉（2005 : 169）を参照。
31) 奈倉（2005 : 169）を参照。

この 3 話を取り上げ、明治期から現代までを通時的に論じていく。

5.1. 「赤ずきん」の受容

「赤ずきん」を始めて出版したのは、フランス人作家のシャルル・ペローである。グリム兄弟も同話型のメルヒェンを自身の童話集に組み込んでおり、筆者の地元にある八潮市立図書館の子供向けのコーナーにはどちらの版も確認することができた。グリム版とペロー版では結末が違っており、グリム版では猟師によって狼に丸呑みされた赤ずきんとおばあさんが助けられるところが、ペロー版ではおばあさんと赤ずきんは救われることなく、狼に食べられて終わるといったように、その他にもいくつか違うところが見られる。

今回の調査で確認することができた中で最も古い「赤ずきん」は、明治 41（1909）年の『家庭雑誌』に収録された「小さな赤帽」である。結末はグリム版のもので、最近の「赤ずきん」には見られない後日談まで掲載されている。その後日談というのが、以下のものである。

> Es wird auch erzählt, daß einmal, als Rotkäppchen der alten Großmutter wieder Gebackenes brachte, ein anderer Wolf ihm zugesprochen und es vom Wege habe ableiten wollen. Rotkäppchen aber hütete sich und ging gerade fort seines Wegs und sagte der Großmutter, daß es dem Wolf begegnet wäre, der ihm guten Tag gewünscht, aber so bös aus den Augen geguckt hätte: »Wenn’s nicht auf offener Straße gewesen wäre, er hätte mich gefressen.«[32)]

> また、こういうお話もあります。あるとき、赤ずきんが、せんとおんなじように、としをとってるお祖母さんのとこへお菓子をもっていくと、べつの狼が話をしかけて、赤ずきんを往来から横道へつれこもうとしました。けれども、赤ずきんは用心ぶかく、わき目もふらずにすたすたあるいて行って、おばあさんに、いま途中で狼にあったら、ごきげんようって挨拶したのですけれど、わるだくみのあることはぎょろりと見た目で知れましたと、お話して、それから、「あれが、もし往来でなかったら、おおかみはあたしをたべちまったでしょうね」と言いまし

32) Grimm (1996：144)。

た[33]。（金田鬼一訳、1979）

赤ずきんは悪い狼の言うことを聞いてしまいおばあさんとともに食べられてしまったという失敗から得た教訓により、再び悪い狼に話しかけられても動じないという成長を遂げている。この後日談が描かれているのは、1944 年藤原肇訳の「赤づきん」『勇ましいちびの仕立て屋さん：グリム童話』所収（1944）が最後で、それ以降に出版された「赤ずきん」では確認できなかった[34]。

また、雑誌『英語の友』に掲載された「赤い頭巾の小さな児」では、英語学習のために「赤ずきん」が用いられている。段落に番号がふられ、左側に英文、右側に日本語訳というように、該当する部分を確認しながら英語を学べる作りになっている。この対話訳の中にはペロー版にもグリム版にも見られない赤ずきんの父親が登場し、間一髪のところを助け出すのも父親である。

このように、ペローにもグリムにもない要素を「赤ずきん」に加えたのは、模範的な家族が登場し、悪者が罰を受けるという勧善懲悪の世界が描かれ、子供たちの道徳性・人間性を養う物語として適切だとみなされていたのではないかと考えられると、川染ユリカは「日本における「赤ずきん」- 明治期の教科書・雑誌にみる受容史 -」の中で指摘している。

大正期になると、原作に忠実な「赤ずきん」が増加した。田中楳吉訳の「紅頭巾さん」（『グリンムの童話』、1914 年）は独和対訳であり、原文に則した訳とみられる。ほかにも、小笠原昌斎訳、田中楳吉訳、金田鬼一訳も原文に則した訳である。また大正期から昭和 1 期（昭和元年～昭和 20 年）にかけて、古閑八州子訳の「赤ヅキン」（『カナグリム』、1924 年）、岸英雄訳の「赤ヅキン」（『こどもグリム』、1925 年）、児童文学研究会訳の「アカヅキン」（『グリムモノガタリ』、1933 年）、高橋昇太郎訳の『カタカナ・エバナシ　赤ヅキン』（1935 年）、池田修二訳の「赤頭巾」（『グリムマンガ』、1937 年）といったようにカタカナを用いて書かれたものが見られた。それは当時、小学校ではカタカナから学び始めたからであろうと奈倉は推測している。

平成期に出版された「赤ずきん」は、野口（2020）によると、収集した 110 冊

33) 金田（1979：273）。
34) 参考資料 1-1。

のうちほとんどがグリム版で、うち3冊のみがペロー版であった[35]。また、原典に忠実な訳もかなり多く存在するが、自由に話をアレンジしたパロディー調のものも増えてきている。令和期のものになるが、ベサン・ウルヴィン著、関根麻里訳の『リトルレッド　あたらしいあかずきんの　おはなし』(2020) では、赤ずきんはおばあさんに化けた狼の存在を見抜き、出し抜いて狼の毛皮を剝ぎ、自分のものにしてしまう。「ついてなかったのは…」という文章が印象的で、「ついてなかったのは、おばああさん」[36]、「ついてなかったのは、オオカミでした」[37] というように、定番のストーリーとは大きく異なり、自由な発想で描かれている。また「ここでたいていのおんなのこだったらこわがるはず。だけどこのこはちがいました。」[38] というように、女の子は弱い存在、というステレオタイプから脱却した女の子として描かれている。

このようにして、「赤ずきん」の受容は変遷していった。現代に近づくにつれて家庭内での家族の役割の変化やステレオタイプの脱却など様々な試みがなされ、教育に重きを置いていた明治期から、社会への問いの投げかけや単なる娯楽など、受容のされ方も多様化されていった。

5.2. 「灰かぶり」の受容

「一番好きなグリム童話作品」という質問でアンケート（6章参照）を行った結果、「シンデレラ」または「灰かぶり」と答えた14人中13人が「シンデレラ」と回答している。これは、現在の日本では「灰かぶり」よりも「シンデレラ」というタイトルの書籍が多く刊行されたり、様々なメディアで取り上げられているからだと考えられる。国立国会図書館デジタルコレクションで図書のみを調べてみると、2022年1月7日現在では「灰かぶり」が35件、「シンデレラ」が269件ヒットし、およそ7.7倍もの差があることがわかる。ちなみに「シンデレラ」(英：Cinderella）というタイトルは、フランス語のサンドリヨン（Cendrillon）がもとになっており、周知のとおりこれらは全て同じ意味である。ディズニー版「シンデレラ」はグリム童話ではなく、ペロー童話の「サンドリヨンまたは小さなガラ

35) 野口（2020：2）を参照。
36) ウルヴィン（2020：14）。
37) ウルヴィン（2020：24）。
38) ウルヴィン（2020：18）。

スの靴」をモデルに作られたことは、（表 4）を見るとわかる。

（表 4）グリム版、ペロー版、ディズニー版「灰かぶり（シンデレラ）」の比較

	主人公	援助者	馬車	靴	舞踏会の開催日数	残酷なシーン
グリム	灰かぶり	鳩、ハシバミ		金	3 日間	あり
ペロー	サンドリヨン	仙女	かぼちゃ	ガラス	1 夜	なし
ディズニー	シンデレラ	フェアリーゴッドマザー	かぼちゃ	ガラス	1 夜	なし

日本に最初に紹介された「灰かぶり」は、菅了法訳の『西洋古事神仙叢話』（1887 年）に掲載された「シンデレラの奇縁」である。「シンデレラ」とタイトルにあるものの、次のような描写から、これはグリム童話版のものであることがわかる。

鳩やこひこひこの木をふるへ
花の小袖に玉のくつ
ふるひ落とせよ我の前へに
雨の降るほどわが前へに [39]

1927 年の『少女号』にはパラマウント映画『ペティ・プロンスンのシンデレラ物語』（1925 年）に関する記事があり、このころから「シンデレラ」をモチーフとした物語が徐々に日本国内で見られるようになる。昭和 1 期の 1929 年には『宝塚歌劇 : シンデレラの唄』として宝塚少女歌劇花組スター連がレコードを発表し、第二次世界大戦中の 1943 年には版画家川上澄生による『しんでれら出世繪噺』が日本を舞台にした物語に置き換えられて出版された [40]。昭和 2 期では、1946 年からディズニー版『シンデレラ姫』が公開された 1952 年 3 月までに出版された話は、国立国会図書館の蔵書に記録されているものだけで 113 冊ほどある。

1952 年にディズニー版「シンデレラ姫」が公開されると、児童雑誌等に掲載されるあらすじはペローやグリムのものではなく、ディズニーが許諾した挿絵を用いた絵本に準拠するようになった。さらに、「シンデレラ」は学生向けの英語学習教材などに積極的に使用されるようになった。原作は「グリム兄弟」となって

39) 川戸（1999 : 159）。
40) この段落は江良（2017 : 190-192）を参照。

いるが、挿絵の服飾やヘアスタイルはディズニー版『シンデレラ姫』に近い描写になっている[41)]。

今回調べた「灰かぶり（シンデレラ）」の 15 話のうち、ペロー童話をもとにした版は 4 話[42)]のみであった。それにもかかわらず、「灰かぶり」よりも「シンデレラ」として認知されがちであるのは、ディズニー版『シンデレラ姫』の影響力が強いことが理由であると考えられる。「1950 年代の日本ではファッション産業の高まりにより、(中略)「選ばれる特別な存在」としてしあわせになるというディズニー版「シンデレラ姫」の結末から、「見出された少女」を表現する言葉として「シンデレラ」は多用される」[43)]ようになったことが、大きな理由の一つであると江良智美は「日本におけるディズニー・アニメーションの影響力 :『シンデレラ姫』」の中で指摘している。またディズニー版「シンデレラ姫」は 20 世紀当時のアメリカ社会で女性の視点から見ても不快感の無いよう改編され、単なる性別役割の理想像として描かれたのではなく、当時の風潮を基に戦後の復興期に希望を与えるように「良心的」に推敲されたと江良は指摘している。その結果、日本での公開時にも強く影響し、西洋文化とシンデレラの幸福な結末は女性たちのあこがれの対象として持ち続けられた[44)]。

「灰かぶり」は明治期に日本に入ってきて以来、同童話をモチーフにした作品が作られ、ペローのものかグリムのものかを問わず、広く親しまれてきた。1952 年にディズニー版「シンデレラ姫」が日本で公開されると、女性のあこがれの的となったシンデレラはさらに様々な形で受容されるようになった。

平成の受容で大きな話題になったのが、実写版の「シンデレラ」である。2015 年に公開されたディズニーによる実写映画で、ペロー版「シンデレラ」をモデルに作られている。主人公にはエラという名前が付けられたり、城で働いているキットという青年が登場するといった設定が加えられているものの、ストーリーは 1952 年のアニメーション映画と大差はない。この映画のレビューには、童話のテーマであるシンデレラの「勇気と優しさ」、そして「ブルーのドレスに変わる瞬間、

41) この段落は江良（2017 : 193）を参照。
42) 西条八十他著（1949）『シンデレラ姫』、古屋白羊著（1954）「しんでれら姫」『はなしの絵本』、桐生操著（1998）「シンデレラ」『本当は恐ろしいグリム童話』、安野三雅著（2011）『シンデレラ』。
43) 江良（2017 : 200）。
44) 江良（2017 : 202-203）を参照。

息を呑みます。」[45] といったような特殊効果技術による映像美が称賛されており、全体的に評価の高い実写映画であることが窺える。

5.3. 「ラプンツェル」の受容

「ラプンツェル」といえば、ディズニーによってアニメ映画化されたものを思い浮かべる人が多いだろう。10 代から 70 代の日本人 76 人に調査を行った結果、最後に観た（読んだ）グリム童話を「ラプンツェル」と答えたのは 26 人である。

グリム童話の「ラプンツェル」とディズニー作品の「ラプンツェル」は、ストーリーが大きく異なる。グリム童話の「ラプンツェル」では、主人公のラプンツェルとその両親、魔女、王子が登場する。ラプンツェルの両親は隣に住む魔女の家の畑から勝手に Rapunzel（レタスのような野菜、日本語では野ぢしゃと訳される）を盗んでしまい、それと引き換えに魔女は生まれたラプンツェルを引き取り育てる。塔の中に閉じ込められたラプンツェルは通りかかった王子と恋仲になるが魔女にばれてしまい、美しく長い髪を切られ荒野に捨てられてしまう。魔女のわなにかかった王子は塔から落ちて失明してしまい放浪するが、荒野にてラプンツェルと再会する。ラプンツェルの涙が王子の目を濡らすと王子は視力を取り戻し、二人は王子の国で幸せに暮らした [46]。

一方ディズニー版「ラプンツェル」では、ラプンツェルは王女として生まれ、彼女の髪の力を欲した悪い魔女がラプンツェルを連れ去り、塔の中に閉じ込めてしまう。彼女の髪には病気や怪我を治す力があり、髪を切ることによって魔法の力は失われてしまう。ある日、フリンという盗賊が追われている最中にラプンツェルのいる塔に逃げ込み、ラプンツェルは夜空に浮かぶ灯りのところまで連れていってもらうことを条件に、フリンのかばんを返すと約束する。魔女や盗賊仲間から追われたものの、二人はとある王国にたどり着き、そこでラプンツェルは自分が幼いころに連れ去られた王女であると知る。灯りの下で二人は恋に落ちるが、ラプンツェルは魔女に連れ戻され、離ればなれになってしまう。助けにやってきたフリンが怪我を負ってしまい、ラプンツェルは髪の力でフリンを助けようとするが、フリンは魔女にかかっているラプンツェルの髪の魔法を解くため、彼女の

45) 映画 .com。
46) 金田（1979 : 132-140）を参照。

長い髪を切り落としてしまう。この力により魔女は若さを保ち続けるが、髪を切られたことによって魔女は年相応の状態になり死んでしまう。ラプンツェルは自由を手に入れたものの、フリンは力尽きようとしていた。ラプンツェルの涙がフリンの上に落ちると、まばゆい光を放ちながらフリンが目を覚ます。二人はラプンツェルが生まれた城に戻り、幸せに暮らした[47]。

グリム版「ラプンツェル」とディズニー版「ラプンツェル」の共通点は、主人公がラプンツェルという少女であること、両親と魔女が登場すること、幼いころから塔に閉じ込められていること、ラプンツェルの涙が恋人の命を救うこと、最終的に二人は王国で幸せに暮らすことなどが挙げられる。しかし、ディズニー版では王子は登場せず、ラプンツェルは王国の出身であり、恋の相手は盗賊で、ラプンツェルの長い髪には魔法の力があるという、グリム版にはない設定が盛り込まれている。これは「赤ずきん」や「灰かぶり」とはまた違った、受容過程における大きな変化である。

確認できた中で最も古い「ラプンツェル」は、『グリム御伽噺』（1916 年）の「ラプンツェル」である。ラプンツェルの年齢が 12 歳から 23 歳に引き上げられる、魔女のその後が不明である等、原作との違いが見受けられたが、原作から大きくストーリーが外れてはいない。原作との大きな相違が見られたのは、昭和 3 期（1966 ～ 1988 年）に出版された、せたせいじ訳による『ながいかみのラプンツェル』（1970 年、福音館書店）である。グリム版ではラプンツェルは魔女によって塔から突き落とされてしまうが、この話では王子が塔から落とされた後、追って自ら身を投げる。一方魔女はというと塔から降りる手段を失い、小さくしぼんで鳥に餌として運ばれてしまう。また、令和期に出版されたウルヴィン、ベサンによる『ラプンツェル　あたらしい　かみながひめの　おはなし』（関根麻里訳 2020 年、文化出版局）では魔女がラプンツェルの髪を売ったり、魔女が塔から髪を伝って降りている間にラプンツェルが髪を切ってしまう等、さらに原作から外れたストーリーになっている。このようにストーリーの変更や追加などから、時代を追うごとに受容のされ方が変化していることがわかる。

以上のことから考えられるのは、時代に合わせて、物語の受容のされ方も変化していることである。例えば、「泥棒」という一般的には良く思われない人物と

47) Disney キッズを参照。

恋に落ちるディズニー版「ラプンツェル」の物語は、明治時代であれば教育的な観点から子供たちから遠ざけられていただろう。時代によって、人々から受け入れられるものは変化し、グリム童話もそれに応じて変化しているのである。

6.　アンケート調査

今回、独自にグリム童話に関するアンケート調査を行い、日本人 76 人とドイツ人 20 人に回答を得た。

10 代から 80 代の日本人とドイツ人に同じ内容のアンケートを行ったところ、「好きなグリム童話は何ですか」という問いに対し、日本人は 32％の人が「なし」[48]、ドイツ人は 11％の人が „kein“[49] と回答した。また日本人数人がグリム童話でない「三匹のこぶた」や、他の質問では「人魚姫」と回答しており、ここから日本人はドイツ人よりもグリム童話への関心が低いことが窺える。

また、「グリム童話のイメージ」について、日本人の 50％ [50] がマイナスのイメージを持っており、それに対してドイツ人はわずか２％ [51] であった。「好きなグリム童話は何ですか」という質問に対し「ラプンツェル」と答えた日本人は、「Disney のラプンツェルに出てくるシーンが可愛くて綺麗なものが多いから」[52]、「ミュージカルみたいで見やすくて、ワクワクする気持ちになれるから」といったように回答しており、プラスのイメージの理由が多く述べられている。確かに「灰かぶり」や「ラプンツェル」、「白雪姫」などディズニーで映像化されたグリム童話はプラスイメージが強いようだが、グリム童話全体でみると、マイナスのイメージを持っていることがわかった。20 代女性からは、「子ども向けだけどちょっと怖いイメージ」、50 代女性からは、「子ども向けの話が多いが、悪い人は罰を受けるようなこわい面も含まれる」という回答があった。子ども向けの作品であるのに、残酷なシーンが多く怖いイメージがあるというギャップに目を向ける日本人が多く、桐生操著の『本当は恐ろしいグリム童話』という作品も影響しているのではないかと考えられる。

48) 参考資料 2-1。
49) 参考資料 2-2。
50) 参考資料 2-3。
51) 参考資料 2-4。
52) 参考資料 2-6。

反対にドイツ人が持つグリム童話のイメージはプラスの方が多く[53]、好きなグリム童話に「ホレおばさん」や「賢い百姓娘」といったように日本人には馴染みの少ない作品が挙げられている。「ホレおばさん」を挙げた人の理由には、„dass Fleiß sich lohnt (typisch deutsche Tugend)“[54]「努力は報われる（典型的なドイツの美徳）」（筆者訳）とあった。このことから、日本人はグリム童話の持つ残酷さをエンターテイメントとしてとらえ、ドイツ人は教育的な意義を持つ物語としてグリム童話を受容しているのではないだろうかと考えられる。

7.　考察

これらの作品を例に、グリム童話のような残酷性を持つ物語を子供に伝えることの是非について、及び時代ごとのジェンダー観について考えてみる。

7.1.　グリム童話の残酷性と教育

第 2 章「グリム童話の受容（明治期）」で先述したように、当時はグリム童話を修身教材として使うことについて、お伽話には実際には起こりえないことが書かれており、嘘を子供たちに教えるのは良くないという非難があった。それでもなおグリム童話の教育的価値の高さが認められ、修身教材に収録された過去がある。現在ではファンタジーを絵本を通して子供たちに触れさせることは、想像力を養うだけでなく、言葉の教育においても有用であると認められている。では、現在の教育でも度々議論になっている残酷性はどのように捉えられているのだろうか。

アンケート結果では、グリム童話は「残酷」や「怖い」というマイナスなイメージを持つ日本人が 50%を占めた[55]。悪いことをした者にはそれ相応の罰が下されるという教訓性を指摘する人も多く、グリム童話は残酷性を含みながらも、それを評価する意見も見られた。

しかし、実際には以下のような例も見られた[56]。ある保育者が子供たちの前で『おおかみと七ひきのこやぎ』を読み聞かせると、保護者から「こんな残酷なも

53) 参考資料 2-4。
54) 参考資料 2-7。
55) 参考資料 2-3。
56) この段落は佐々木（2020：74）を参照。

の読まないでください！」とクレームが来たという。

保護者の言う「残酷」とは、おおかみが子やぎに石を詰められて川に落とされ殺されるという、現実では起こり得ないファンタジーである。このようなことに過剰に反応し、残酷なシーンを省いたり遠ざけたりするほど、残酷な話は子供に悪影響を与えるのだろうか。坂内は野村泫の『グリム童話　子どもに聞かせてよいか？』での言葉を引用しつつ同書の解説の中でこう述べている。

> 例えば、昔話が文学の原型として、「人間の基本的リズムに、それどころか生物の基本的なリズムに乗っている」と語られる時、すでに昔話は十二分に防御され尽くしているし、そして、残酷さについて、「昔話に書かれていることは、考えもつかないような残酷なことではありません。人間が実際にやって来たこと、今もやっていることと同じ程度に残酷なことが書かれているわけです。」（中略）と書かれた時、すでに勝負は決しているのです[57]。

また野村は、グリム童話を子供に読み聞かせるにあたり、「大人が気にかけなくてはならないのは、親身になって子どもに語る人の少ないことで、個々の残酷な言い回しではありません」[58]と述べている。

アンケート結果では、日本で広く知られているグリム童話の持つ残酷性について「悪いことは自分に返ってくる」という教訓性を持つと考えている人もいる。しかし残酷だからと言って全て遠ざけてしまうのは、時に子供の考える機会を奪いかねない。今も昔も賛否両論あることは変わりないが、過剰に反応することなく、読み聞かせをする大人は子供の成熟度合に合わせて冷静に対応していくべきではないだろうか。

7.2.　ジェンダー観

ここでは、とりわけ「灰かぶり（シンデレラ）」に対するジェンダー観を取り上げて考えていく。グリム童話の第一版が発刊された近世のドイツで女性に求められていた役割は、「母として家庭での子供の養育と教育を担い、妻として家政

57) 坂内（1993：219-220）。
58) 野村（1993：213）。

を取り仕切り、また身分によっては、自ら働いて生計を維持する」[59] ことだった。男性のため、家族のために一歩身を引いて陰から支える女性が良しとされたジェンダー観は、ディズニー版でも見ることができる。

野口はディズニー版「シンデレラ姫」を、シンデレラが「従順で受動的な女性」[60] で、「男性は逞しく積極的，女性は従順で消極的という、近代の「男らしさ」、「女らしさ」が、絵本やアニメーションに巧みに挿入されている」[61] と評価している。これに関して江良は、

> 勤労と努力を美徳とするプロテスタント精神が Walt Disney の Cinderella では強く打ち出されており，女主人公の幸福な結婚は，彼女の絶えざる努力に対する神の祝福と解釈される．このような意味で Walt Disney がヨーロッパの物語の中の Cinderella に新たな生命を吹き込んだと理解することができるのだ [62]

と論じている。ディズニー版「シンデレラ姫」は単なる性別役割の理想像として描かれたのではなく、当時の風潮を基に戦後の復興期に希望を与えるよう十分に良心的に推敲されている[63]と江良は論じている。そのため、従順で消極的な女性の描き方に関して、当時はそれほど批判されなかったと言う。

しかし野口と江良の説にはいくつか考えるべき点があるのではないだろうか。ディズニー版「シンデレラ姫」は 20 世紀当時のアメリカ社会で女性の視点から見ても不快感の無いよう改編されたというが、それはあくまでも当時のアメリカ社会にとってであり、また不快に思うのかは人それぞれであり、人に不快感を与えないものが正しくないとは限らない。「良心的」というのも、ここでは「従順で消極的な女性」を好都合に思う人々にとってのものではないだろうか。また、主人公のシンデレラは今や女性の憧れの存在となっているが、ディズニー版の描き方は、きれいな女性や心身ともに美しい女性＝女性らしさという考え方を押し付けているのではないかとも考えられる。ジェンダー論を研究している加藤秀一

59) 猪刈（2011：91）。
60) 野口（2011：10）。
61) 野口（2011：10）。
62) 江良（2017：203）。
63) 江良（2017：203）を参照。

は、「男らしい、女らしいってそういう言い方をしますよね。その裏側には必ず「らしくしろよ」っていう命令が隠されてますよね」と番組内[64]で述べている。この「らしさ」というものは、受容者に一つの考え方を縛り付けてしまうのではないだろうか。

アンケート結果では、ジェンダーについて触れている回答者は日本人とドイツ人それぞれ一人ずつのみであった。日本人の方では、「好きなグリム童話作品とその理由」という質問に「シンデレラ」をあげ、「女の子が憧れる王子さまとか、ドレスとか我が家の娘達が大好きなお話です」[65]と回答している。またドイツ人の方では同様の質問に „Die kluge Bauerntochter“（「賢い百姓娘」（KHM94））をあげ、„weil es um eine unerschrockene Frau geht, die sich nicht den Mund verbieten lässt. Sie ist der Wahrheit in Wort und Tat verpflichtet und stellt sich der Dummheit mit Humor“（「他の人から口を閉ざされることのない勇敢な女性の話だから。彼女は言葉においても行動においても真実に従い、愚かさにユーモアをもって立ち向かっている。」（筆者訳））[66]と回答している。前者は「女の子が憧れる」というように全ての女の子は王子様やドレスが好きであるという前提であるが、後者は女性の勇敢さについて触れており、それぞれ女性を違う側面から見ていることがわかる。

ここで見られる大きな違いは、日本人は「女性が女性らしく描かれている」ことに好感を持ち、ドイツ人は「ある意味女性らしくない女性が描かれている」ことに好感を持っていることである。上記の日本人の回答では「女の子が憧れる」は「王子さま」と「ドレス」を修飾しており、女の子は王子さまや綺麗なドレスに憧れるのは当然のことである、というような解釈もできうる。このような考え方を持つ人は、もし男の子がフリルの付いたスカートを履きたいと言えば、あまりいい反応はしないだろう。ドイツ人の回答では、王子さまもドレスも登場しない、日本人がイメージする「女性」とは真逆の女性について述べられている。「賢い百姓娘」（KHM94）にはディズニー映画のような王子さまもドレスも登場せず、頭のきれる娘が登場するだけである。日本人とドイツ人の回答者は同じ「女性」

64) 2021 年 4 月 1 日放送「シンデレラから考える“男らしさ・女らしさ”」（NHK）。
65) 参考資料 2-5。
66) 参考資料 2-8。

について述べたにもかかわらず、全く違う視点で女性をとらえている。今回は調査数が少ないため必ずしも言い切れるわけではないが、ジェンダーギャップ指数などにあらわれる日本の旧態依然としたジェンダー観の一端をここにも見ることができるのではないだろうか。

5 章 1 項の「赤ずきん」の受容でも述べたように、近年は「女の子」というステレオタイプから脱却した主人公が登場している。世界的にもジェンダー平等や多様性を認める動きが広まっており、今後新たにグリム童話の作品がアレンジされ世に出されるとしたら、これらのことも考慮された作品が生み出されるべきだろう。

8. 結論

ここまで、明治から昭和にかけてのグリム童話の受容及び、「赤ずきん」、「灰かぶり」、「ラプンツェル」の最近までの受容の変化を見てきた。

グリム童話が日本に入ってきた明治期には、ヘルバルト教育学の影響もあり、修身教材のような副読本として、教育的意図をもって受容されていた。時代が進むにつれ教育的な目的から娯楽へと変化し、子供向けではない完訳のものや手軽に楽しむことの出来る漫画版、ディズニーによる映像化など幅広いメディアに展開したことで、子供から大人まで多くの日本人に親しまれるようになった。

作品別の受容の変遷を見ると、「赤ずきん」は教育に重きを置いていた明治期から、社会への問いの投げかけや単なる娯楽へと多様に変化していった。また、「灰かぶり」はディズニー版「シンデレラ姫」の公開により、特に女性の間であこがれの象徴として見られるようになり、「ラプンツェル」はグリム版とディズニー版の間に物語の展開において大きな差がある等、確認することができた。

このように、時代の変化とともにグリム童話の日本における受容も変化してきた。教育的な配慮や、時代に合わせて大衆向けにアレンジすることは、ごく自然なことであろう。

時代に合わせて変化していくグリム童話を、今回は残酷な物語を子供に読ませることの是非、ジェンダー観の 2 点に絞って考察した。先行研究からは、グリム童話の残酷なシーンを子供に読ませることについて、少し過剰ともとれる保護者の反応があることがわかった。しかし賛否両論はあるが、独自に調査したアンケー

ト結果からはグリム童話の残酷性はある程度受け入れられていることが窺える。グリム童話を残酷だからと言って全てを遠ざけてしまうのではなく、年齢や成熟度合に応じた配慮を加えながら受容していくべきではないだろうか。

ジェンダー観についてはディズニー版「シンデレラ姫」を中心に見てきた。この作品は世界中の女性を魅了し憧れの的となっているものの、主人公の描き方に女性らしさの押し付けのようなものが感じられ、そこに問題があると言わざるを得ない。しかしその点を問題視する人は、日本人にもドイツ人にも少なく、日本人においてはむしろそれを積極的に評価する態度すらアンケート結果から窺えた。現在でも「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」という考えが根付いており、例えば男の子が美しいドレスを着ることにあまりいい反応はされない。ジェンダーの考え方は徐々に変化しているものの、物語を通して「らしさ」を植え付けてしまう是非について、今後もさらに議論してくべきではないだろうか。

先行研究と独自のアンケート調査により、残酷な物語を子供に読ませることの是非、またグリム童話におけるジェンダー観について、時代の流れと共に受容のされ方が変化してもなお課題が残っていることがわかった。グリム童話は日本だけでなく世界中で愛されており、全ての人に納得される形を模索するのは難解である。しかし、学ぶ機会を奪ってしまうことや特定の人を傷つけたりする可能性があるものは、改善の余地があるのではないだろうか。

参考文献

一次文献

安野三雅（2011）『シンデレラ』世界文化社。

池田修二（1937）「赤頭巾」『グリムマンガ　赤頭巾』銀洋社。

乾侑美子訳（2000）「赤ずきん」「灰かぶり」「ラプンツェル」『1812 初版グリム童話（上）』小学館。

内海繁太郎（1932）「兒童劇　赤づきん」『標準学芸会　3 学年用』三友社、URL: dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1717985（参照日：2021 年 11 月 1 日）。

ウルヴィン、ベサン（2020）『ラプンツェル　あたらしい　かみながひめの　おはなし』（関根麻里訳）文化出版局。

ウルヴィン、ベサン（2020）『リトルレッド　あたらしい　あかずきんの　おはなし』（関根麻里訳）文化出版局。

太田黒克彦編（1926）「あかづきん」『ひらがなぐりむ』文園社、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1717577（参照日：2021 年 11 月 5 日）。

大塚勇三訳（2020）『あかずきん　グリム童話』福音館書店。

金田鬼一（1924）『世界童話大系第二巻　独逸篇』世界童話大系刊行会。

金田鬼一（1942）「赤づきん」『グリム童話劇』アルス、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169703（参照日：2021 年 11 月 1 日）。金田鬼一訳（1948）「赤ずきん」『グリム童話（上）』広島書店、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1168070（参照日：2021 年 11 月 1 日）。

金田鬼一訳（1979）「ラプンツェル」「灰かぶり」「赤ずきん」『完訳グリム童話集（一）』[改版] 岩波書店。

川戸道昭編（1999）『明治期グリム童話翻訳集成　第二巻』アイアールディー企画。

菊池寛訳（1927）「灰かぶり娘」「赤頭巾」『グリム童話集』興文社。

岸英雄（1925）「赤ヅキン」『こどもグリム』イデア書院、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1716254（参照日：2021 年 10 月 28 日）。

木村小舟訳（1908）「紅帽子」『教育お伽噺』博文館。

桐生操（1998）「シンデレラ」『本当は恐ろしいグリム童話』KK ベストセラーズ。

桐生操（1999）「ラプンツェル」『本当は恐ろしいグリム童話Ⅱ』KK ベストセラーズ。

グリム兄弟（1947）「あかずきん」『赤ずきん』野村書房、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1168445（参照日：2021 年 10 月 28 日）。

グルーヴィジョンズ（2001）『グリム童話アーティストブックシリーズ　灰かぶり（シンデレラ）』（矢崎源九郎訳）新風舎。

こわせたまみ他（2017）『ひきだしのなかの名作 5　あかずきん』フレーベル館。

西条八十他（1949）『シンデレラ姫』講談社、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169139（参照日：2021 年 10 月 28 日）。

斎田喬他（1948）「赤ずきん（人形劇台本）三場」『赤ずきん : 学校劇集』啓文館、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169649（参照日：2021 年 11 月 1 日）。

相良守峯他訳（1948）「赤づきん」『グリム傑作童話集　上』羽田書店、URL:

https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169137（参照日：2021 年 11 月 1 日）。
佐々木田鶴子訳（2007）「ラプンツェル」『グリム童話集上』岩波書店。
佐々木田鶴子訳（2007）「赤ずきん」「灰かぶり」『グリム童話集下』岩波書店。
渋江保訳（1891）「シンドレラ嬢奇談」『西洋妖怪奇談』博文館。
菅了法訳（1887）「シンデレラの奇縁」『西洋古事神仙叢話』集成社、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/903424（参照日：2021 年 10 月 31 日）。
世界童話大系会編（1924）「野萵苣（ラプンツェル）」「灰かぶり」「赤づきん」『世界童話大系』世界童話大系刊行会、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/978854（参照日：2021 年 10 月 28 日）。
せたていじ訳（1970）『ながいかみのラプンツェル』福音館書店。
田中楳吉訳（1914）「紅頭巾さん」「灰かぶりさん」『グリンムの童話』南山堂書店、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/942667（参照日：2021 年 10 月 28 日）。
長尾豊他（1928）「赤づきん」『国語読本教材お話集　尋 1 篇』厚生各書店、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169318（参照日：2021 年 10 月 28 日）。
長尾豊（1930）「赤づきん」『お話全集　尋常 1 年生』厚生閣書店、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169046（参照日：2021 年 11 月 1 日）。
中島孤島訳（1916）「消炭さん」「赤頭巾」「ラプンツェル」『グリム御伽噺』冨山房、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/945522（参照日：2021 年 10 月 29 日）。
中島孤島訳（1938）「ラプンツェル」『グリム童話集』冨山房、URL: https://www.aozora.gr.jp/cards/001091/files/42309_18060.html（参照日：2021 年 10 月 31 日）。
那須田淳訳（2011）『ラプンツェル』岩崎書店。
野村泫訳（1999）『決定版完訳グリム童話集 1』筑摩書房。
野村泫訳（1999）『決定版完訳グリム童話集 2』筑摩書房。
長谷川元吉訳（1910）「赤い頭巾の小さい児」『英語の友』建文館。
日野蕨村訳（1911）「赤帽子」『ドイツお伽噺』岡村書店。
藤原肇訳（1944）「ラプンツェル」「赤づきん」『勇ましいちびの仕立て屋さん：グリム童話』森北書店。
古屋白羊（1954）「しんでれら姫」『はなしの絵本』ます美書房、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1169175（参照日：2021 年 10 月 28 日）。
ペロー、シャルル（1982）「赤ずきんちゃん」「サンドリヨンまたは小さなガラス

の靴」『完訳ペロー童話集』（朝倉朗子訳）岩波書店。

星野久成他編（1909）「赤帽さん」「眞珠姫」『家庭お伽噺』小川尚栄堂、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1901965（参照日：2021 年 10 月 31 日）。

ポター、ビアトリクス（2020）『RED RIDING HOOD 赤ずきん』（角野栄子訳）文化出版局。

百島操訳（1909）「赤帽の娘」『グリム御伽噺』内外出版社、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1919735（参照日：2021 年 11 月 27 日）。

楊花訳（1908）「小さな赤帽」『家庭雑誌』家庭雑誌社。

矢川澄子他（2001）『絵本・グリム童話　赤ずきん』教育画劇。

矢川澄子他（2001）『絵本・グリム童話　灰かぶり』教育画劇。

与田準一他（1939）「赤づきんちゃん」『小学童話読本　2 年生』信生堂書店、URL: https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1718047（参照日：2021 年 10 月 28 日）。

ワッツ、バーナディット（1976）『赤ずきん』（生野幸吉訳）岩波書店。

Brüder Grimm (1996): *Grimms Kinder- und Hausmärchen.* München: Eugen Diederichs Verlag.

二次文献

赤津純子（2008）「昔話を子どもに伝えることの教育的意義」『埼玉学園大学紀要人間学部篇』第 8 巻、151-161 ページ。

猪刈由紀（2011）「〈展望〉　近世ドイツのカトリック女子教育 : A・ルッツ『教育・宗派・ジェンダー』の成果から」『ソフィア：西洋文化ならびに東西文化交流の研究』第 59 巻、86-93 ページ。

江良智美（2017）「日本におけるディズニー・アニメーションの影響力 :『シンデレラ姫』（1952）日本初公開時における服飾流行と女性への影響」『経済学紀要』第 24 巻、185-209 ページ。

大野寿子（2016）「挿絵展「ヨーロッパのメルヒェン世界―４グリム童話と挿絵の黄金時代―」」『日本文学文化』第 15 巻、76（1）－ 55（22）ページ、URL: http://id.nii.ac.jp/1060/00011489/（参照日：2021 年 11 月 1 日）。

川染ユリカ（2009）「日本における「赤ずきん」- 明治期の教科書・雑誌にみる受

容史 -」『Evergreen』第 30 巻、11 ページ。
木村小舟（1908）『教育お伽噺』博文館。
佐々木由美子他（2020）「幼年童話事始め」『国際子ども図書館児童文学連続講座講義録 . 令和元年度』68-87 ページ、URL: https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11537684_po_R1-full.pdf?contentNo=1&alternativeNo=（参照日：2022 年 7 月 8 日）。
須田康之（1996）「グリム童話受容にみる教育的価値意識の分析：「狼と七匹の子やぎ」の受け取りにおける異文化間比較」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』第 48 巻、219-220 ページ、URL: http://ci.nii.ac.jp/naid/110001891245（参照日：2021 年 9 月 9 日）。
須田康之（2003）『グリム童話〈受容〉の社会学―翻訳者の意識と読者の読み―』東洋館出版社。
高橋信子（1983）「子供の世界観とファンタジーの関係」『日本保育学会大会研究論文集』第 36 巻、566-567 ページ。
続橋達雄（1990）『日本児童文学の《近代》』大日本図書。
奈倉洋子（2005）『日本の近代化とグリム童話―時代による変化を読み解く―』世界思想社。
野口芳子（2011）「「シンデレラ」の固定観念を覆す ―ジェンダー学的観点からのグリム童話解釈―」『武庫川女子大学紀要　人文・社会科学編』第 58 巻、1-11 ページ。
野口 芳子（2020）「日本における「赤ずきん」の受容：平成期を中心に」『梅花女子大学心理こども学部紀要』第 10 号、1-12 ページ。
野村泫（1993）『グリム童話　子どもに聞かせてよいか？』ちくま学芸文庫。
坂内徳明（1993）「解説　「昔話戦士」野村さん」『グリム童話　子どもに聞かせてよいか？』ちくま学芸文庫。
藤涛文子（1996）「翻訳童話のテクスト成立事情―グリム童話を例に―」『ドイツ文学』第 96 巻、75-85 ページ。
文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』文部科学省。
山中吾郎（2020）「ファンタジー絵本をどう読むか―小学校国語科教材との関連をふまえて―」『教育学研究紀要』第 11 巻、69-87 ページ。

山本正身（1985）「日本におけるヘルバルト派教育学の導入と展開」『慶応義塾大学大学院社会研究科紀要』第 25 巻、67-74 ページ。

ハウスクネヒト、エミール（1988）『教育時論』第 101 号、開発社。

インターネット情報

映画 .com「シンデレラ（2015）」映画 .com、URL: https://eiga.com/movie/81450/（参照日：2021 年 12 月 11 日）。

Disney キッズ「ラプンツェルの物語」Disney キッズ、URL: https://kids.disney.co.jp/special/disney_princess/storybook/rapunzel.html（参照日：2021 年 11 月 18 日）。

Disney キッズ「シンデレラの物語」Disney キッズ、URL: https://kids.disney.co.jp/special/disney_princess/storybook/cinderella.html（参照日：2021 年 11 月 26 日）。

NHK（2021 年 4 月 1 日）「シンデレラから考える“男らしさ・女らしさ”」NHK、URL: https://www.nhk.jp/p/baribara/ts/8Q416M6Q79/blog/bl/pLX3Q03nzZ/bp/paDJQZ6xOy/（参照日：2022 年 1 月 2 日）。

United Nations: MAKE THE SDGS A REALITY, United Nations, URL: https://sdgs.un.org/ (abgerufen am 12. 12. 2021).

参考資料 1-1　赤ずきん

	タイトル（出版社）	残酷なシーン（※）	原作との大きな相違	後日談	備考
明治期					
1908	「小さな赤帽」『家庭雑誌』（家庭雑誌社）	○	なし	あり	
1908	紅帽子（教育お伽噺）	△	あり	なし	狼は鉄砲で撃たれ、赤ずきんとおばあさんは助けられる。
1909	「赤帽の娘」『グリム御伽噺』（内外出版協会）	○	あり	なし	
1909	「赤帽さん」『家庭お伽噺』（小川尚栄堂）	○	あり	なし	朝、買い物帰り。寝てるところを食べられる。救いなし。解説あり。
1910	「赤い頭巾の小さい児」『英語の友』（建文館）	×	あり	不明	お父さん登場。
1911	「赤帽子」『ドイツお伽噺』（岡村書店）	○	あり	なし	
大正期					
1914	「紅頭巾さん」『グリンムの童話』（南山堂書店）	○	なし	あり	原作とほぼ一緒。左ページにドイツ語の文章。
1916	「赤頭巾」『グリム御伽噺』（富山房）	△	あり	なし	赤ずきん食べられない。
1924	赤づきん（世界童話大系刊行会）	○	なし	あり	
1925	「赤ヅキン」『こどもグリム』（イデア書院）	○	あり	なし	お菓子と葡萄酒→たまご。赤ずきん食べられずに、狼は鉄砲で殺される。
昭和 1 期					
1926	「あかづきん」『ひらがなぐりむ』（文園社）	○	あり	なし	狼を撃ち殺してから腹を切る。おばあさん瀕死ではなくぴんぴんしてる。
1927	「赤頭巾」『グリム童話集』（興文社）	○	なし	あり	
1928	「赤づきん」『国語読本教材お話集』（厚生閣書店）	×	あり	あり	戯曲みたい。赤ずきん食べられず、おばあさんは逃げる。
1930	「赤づきん」『お話全集尋常 1 年生』（厚生閣書店）	○	あり	なし	
1932	「兒童劇　赤づきん」『標準学芸会』（三友社）	△	あり	なし	劇。犬、鳩が赤ずきんを救う。赤ずきん食べられず、お婆さんは死ぬ。
1939	「赤づきんちゃん」『小学童話読本』（信生堂書店）	△	あり	なし	食べられるところの描写はない。
1942	「赤づきん」『グリム童話劇』（アルス）	○	あり	なし	劇。狼視点から。狼と赤ずきんは知り合い。怖くなって後ずさる。
1944	「赤づきん」『勇ましいちびの仕立て屋さん：グリム童話』(森北書店)	○	なし	あり	
昭和 2 期					
1946	「赤づきん」『グリム傑作童話集上』（羽田書店）	○	あり	なし	
1947	「あかずきん」『赤ずきん』（野村書房）	△	あり	なし	赤ずきんは食べられず、狼は腹を切られる。石は詰められない。
1948	「赤ずきん（人形劇台本）三場」『赤ずきん：学校劇集』（啓文館）	×	あり	なし	人形劇台本。狼と赤ずきんは知り合い。おばあさんが食べられるシーンなし。赤ずきんは食べられない。おばあさん吐き出される。
1948	「赤ずきん」『グリム童話（上）』（広島書店）	△	あり	なし	
昭和 3 期					
1976	『赤ずきん』（岩波書店）	○	あり	なし	
平成期					
2001	『絵本・グリム童話　赤ずきん』（教育画劇）	○	あり	なし	
2007	「赤ずきん」『グリム童話集下』（岩波書店）	○	あり	なし	
2007	『ひきだしのなかの名作 5　あかずきん』（フレーベル館）	○	なし	なし	
令和期					
2020	『リトルレッド　あたらしいあかずきんのおはなし』（文化出版局）	△	あり	なし	おばあさんのみ食べられる。赤ずきん見破る。「ついてなかったのは…」
2020	『RED RIDING HOOD 赤ずきん』（文化出版局）	△	あり	なし	ペロー版。木こり登場。赤ずきんイチゴも摘む。日暮れまで。「そして、それが赤ずきんのさいごでした。」
2020	「あかずきん」『あかずきん　グリム童話』（福音館書店）	○	あり	なし	

※残酷なシーン＝赤ずきんとおばあさんが狼に食べられるシーン、また、狼の腹を切り赤ずきんとおばあさんを救出したのち、狼の腹に石を詰めて殺すシーン

参考資料 1-2　灰かぶり

	タイトル（出版社）	残酷なシーン（※）	靴	継母（義姉）	援助者	結婚式	原作との大きな相違	備考
明治期								
1887	「シンデレラの奇縁」『西洋古事神仙叢話』（集成社）	○	金	相違なし	鳩、枝	なし	なし	シンデレラ即ちおすす。豆→麻の実。王子は家まで追いかけてこない。
1891	「シンドレラ嬢奇談」『西洋妖怪奇談』（博文館）	○	金	義姉→紅皿菊皿	鳩、枝	あり	なし	シンドレラ＝欠皿。
1909	「真珠姫」『家庭お伽噺』（小川尚栄堂）	○	金	いじわるシーンカット	鳩、枝	なし	あり	お土産の枝、豆のくだりなし。城に呼び出される。鳩が靴を城に持っていく。
大正期								
1914	「灰かぶりさん」『グリンムの童話』（南山堂書店）	○	金	相違なし	鳩、枝	あり	なし	左側にドイツ語。完訳。
1916	「消炭さん」『グリム御伽噺』（富山房）	○	金	相違なし	鳩、枝	あり	なし	消炭さん。ドレス→着物。完訳。
1924	「灰かぶり」『世界童話大系』（世界童話大系刊行会）	○	金	相違なし	鳩、枝	あり	なし	完訳。
昭和 1 期								
1927	「灰かぶり娘」『グリム童話集』（興文社）	○	金	相違なし	鳩、枝	あり	なし	ほぼ完訳。義姉の目がつぶされるシーンはなし。
昭和 2 期								
1949	『シンデレラ姫』（講談社）	×	ガラス	血がつながっている	魔法使いのおばあさん	なし	あり	ペロー寄り。お姉さん改心する。
1954	「しんでれら姫」『はなしの絵本』（ます美書房）	×	金	いじめない	魔法使いのおばあさん	なし	あり	かなり端折る。絵で説明。ディズニー版のよう。
平成期								
1998	「シンデレラ」『本当は恐ろしいグリム童話』（ＫＫベストセラーズ）	○	ガラス	相違なし	謎の女性	なし	あり	ペローとグリムが混ざっている。夜中の 12 時に帰る。舞踏会は 2 日間。目をつぶされる後日談あり。
2001	『グリム童話アーティストブックシリーズ灰かぶり（シンデレラ）』（新風舎）	○	金	相違なし	なし	あり	なし	舞踏会→宴会。金の着物。
2001	『絵本・グリム童話　灰かぶり』（教育画劇）	○	金	相違なし	なし	あり	あり	お父さん不在。豆を拾うのは一回。階段にペンキを塗る。
2007	「灰かぶり」『グリム童話集下 』（岩波書店）	○	金	相違なし	なし	なし	あり	
2011	『シンデレラ』（世界文化社）	×	ガラス	相違なし	まほうつかい	なし	あり	ペロー寄り。義姉二人寝坊助。舞踏会→ダンスパーティー。

※残酷なシーン＝義姉が継母の命でつま先やかかとを切り落とすシーン、また、結婚式で鳩に義姉が目をつぶされて失明してしまうシーン

参考資料 1-3　ラプンツェル

	タイトル（出版社）	残酷なシーン（※）	王子	原作との大きな相違	備考
大正期					
1916	「ラプンツェル」『グリム御伽噺』（富山房）	○	あり	△	ラプンツェル→大根、何年か→ 23 年、三つ編み→辮髪、魔女のその後（不明）
1924	「野萬莒（ラプンツェル）」『世界童話大系』（世界童話大系刊行会）	○	あり	なし	ラプンツェルと王子の子供が生まれている。
昭和 1 期					
1938	「ラプンツェル」『グリム童話集』（冨山房）	○	あり	△	娘→ 12 歳、三つ編み→辮髪、魔女のその後（不明）
1944	「ラプンツェル」『勇ましいちびの仕立て屋さん：グリム童話』（森北書店）	○	あり	なし	
昭和 3 期					
1970	『ながいかみのラプンツェル』（福音館書店）	○	あり	△	ラプンツェル 12 歳。ラプンツェルは自分で飛び降りる。砂漠に捨てられない。魔女の後日談（当然の報い）。
平成期					
1999	「ラプンツェル」『本当は恐ろしいグリム童話Ⅱ』（ＫＫベストセラーズ）	○	あり	あり	魔女とラプンツェルは日常的に男を騙し川に捨てる。性的な表現が多くある。
2007	「ラプンツェル」『グリム童話集下』（岩波書店）	○	あり	なし	砂漠→荒れ野
2011	『ラプンツェル』（岩崎書店）	○	あり	なし	ラプンツェルと王子の子供が生まれている。
令和期					
2020	『ラプンツェル　あたらしいかみながひめのおはなし』（文化出版局）	×	なし	あり	魔女が訪ねてくる。両親なし。ラプンツェルの髪を売る。ラプンツェルが蛙にされる。髪に葉っぱがついてることから塔から抜け出していることがバレる。魔女が髪を伝って降りてる最中に髪を切る。

※残酷なシーン＝王子が塔から飛び降り、茨で目をつぶして失明してしまうシーン

日本人 76 人、ドイツ人 20 に行ったグリム童話に関するアンケート調査の結果

参考資料 2-1

好きなグリム童話作品（日本人）

	人数（人）
なし	24
シンデレラ（灰かぶり）	14
ヘンゼルとグレーテル	10
ラプンツェル	5
ブレーメンの音楽隊	5
狼と七匹の子やぎ	4
白雪姫	4
かえるの王様	3
三匹のこぶた	1
十二人の兄弟	1
ハーメルンの笛吹き男	1
ライオンと蛙	1
ルンペルシュテルツヒェン	1

参考資料 2-2

好きなグリム童話作品（ドイツ人）

	人数（人）
白雪姫	4
ルンペルシュテルツヒェン	3
つぐみのひげの王さま	2
なし	2
ヘンゼルとグレーテル	2
ホレおばさん	1
知恵者エルゼ	1
賢い百姓娘	1
漁師とおかみ	1
灰かぶり	1

参考資料 2-3

グリム童話のイメージ（日本人）

	割合（%）
マイナス	50
その他	26
プラス	17
教訓	7

参考資料 2-3

グリム童話のイメージ（ドイツ人）

	割合（%）
マイナス	2
その他	2
プラス	13
教訓	5

Zur Rezeption der Grimmschen Märchen in Japan. Genderthematik und pädagogische Fragen

Aya Suzuki

Grimms Märchen, die die Brüder Grimm als „Kinder- und Hausmärchen“ zwischen 1812 und 1858 herausgegeben haben, sind auch in Japan seit 1886 bekannt. In Japan werden Grimms Märchen als Lehrmittel rezipiert, und die Art und Weise der Rezeption hat sich im Laufe der Zeit verändert.

In meinem Beitrag folge ich von der Meiji-Zeit bis zur Gegenwart den Veränderungen in der japanischen Rezeption von Grimms Märchen. Ich analysiere die Vor- und Nachteile, den Kindern grausame Geschichten zu erzählen, am Beispiel von Cinderellas (bzw. Aschenputtels) Stiefmutter, die den Finger ihrer Tochter abschneidet. Bei dieser Analyse gehe ich auch auf Genderproblematik im historischen Zeitraum vom 19. Jahrhundert bis zur Gegenwart ein.

Außerdem habe ich unter 76 Japanern und 20 Deutschen über Grimms Märchen eine Umfrage gemacht und analysiere das Ergebnis.

In der Meiji-Zeit, als Grimms Märchen erstmalig nach Japan kamen, wurden sie unter dem Einfluss u. a. von Herbarts Pädagogik unter solchen pädagogischen Absichten akzeptiert und zwar als Ergänzungslehrwerk, z. B. als Shusei-Materialien, um den Kindern bestimmte Moralvorstellungen zu lehren.

In der Taisho-Zeit konnten die Kinder auch außerhalb des Schulunterrichts Grimms Märchen lesen. Die Illustrationen der Märchen wurden aufgrund der in dieser Zeit herrschenden demokratischen Trends geändert.

In dieser Taisho-Zeit übersetzte auch Kiichi Kaneda zum ersten Mal die vollständige Fassung der Märchen der Brüder Grimm ohne wesentliche Änderungen ins Japanische.

In der frühen Showa-Zeit war die Denkweise „gute Qualität zu einem niedrigen Preis“ in der Verlagsbranche aufgetreten. Durch das Erscheinen von preisgünstigen Manga-Versionen der Märchen konnten sich die Leute leichter daran erfreuen.

Während des Zweiten Weltkriegs mussten einige Zeitschriften, in denen Grimms

Märchen veröffentlicht wurden, wegen Nachrichtensperren und Druckpapierkontrollen, größtenteils eingestellt werden. Auch wurden jetzt Teile der Märchen, die für Kinder als unpassend angesehen wurden, weggelassen.

Da es schwierig ist, die gesamte japanische Rezeption von Grimms Märchen nach dem Zweiten Weltkrieg insgesamt zu untersuchen, habe ich mich auf drei Märchen konzentriert. Ich habe z. B. festgestellt, dass sich das Märchen „Rotkäppchen", das in der Meiji-Zeit noch als Lehrmittel gelesen wurde, jetzt zu einer Unterhaltungslektüre gewandelt hat.

In meinem Beitrag betrachte ich die japanische Rezeption von drei Märchen unter zwei Gesichtspunkten: Wie geht man mit den in den Märchen dargestellten Grausamkeiten um? Und wie kann man (bzw. soll man überhaupt) die in den Märchen dargestellten traditionellen Geschlechterrollen akzeptieren?

Es könnte sein, dass Eltern es ablehnen, dass ihre Kinder die grausamen Szenen in einigen Märchen lesen. Aber man kann als Ergebnis meiner Umfrage feststellen, dass die Grausamkeiten in Grimms Märchen in gewissem Umfang akzeptiert werden.

Laut Nomura müssen Erwachsene, wenn sie Kindern die Märchen vorlesen, je nach Alter und Reifegrad des Kindes noch zusätzlich auf das Kind eingehen.

Mit Bezug auf die Genderperspektive habe ich Grimms „Aschenputtel" und Disneys „Cinderella" miteinander verglichen. Ich habe, unter der Genderperspektive, besonders den Einfluss von „Cinderella“, das in Japan als eines der Märchen Grimms verstanden wird, auf Frauen untersucht. Dieses Werk fasziniert Frauen auf der ganzen Welt, aber es bestärkt auch die Denkweise, dass Frauen schön sein müssen.

Aber es gab bei meiner Umfrage weder Japaner oder Deutsche, die dies als ein Problem ansahen. Ganz im Gegenteil hat z. B. ein japanischer Befragungsteilnehmer die Darstellung von Frauen in Cinderella positiv bewertet.

Gegenwärtig ändern sich allerdings die Ideen über bestimmte Genderrollen allmählich. Allerdings gibt es nach wie vor in der japanischen Gesellschaft eine stark traditionelle Genderperspektive. Über die Problematik der potenziellen Verstärkung traditioneller Rollenbilder durch Märchen und Kinderbücher sollte weiter diskutiert werden.